

小出裕章氏 来る！ 原発を語る



写真:高橋勝視

【プロフィール】

1949年東京生まれ。元京都大学原子炉実験所助教、原子核物理学者

原子力の平和利用に夢を抱いて東北大学工学部原子核工学科に入学。原子力を学ぶことでその危険性に気づき、放射線被害を受ける住民の側に立ち活動

著書に「隠される原子力・核の真実－原子力の専門家が原発に反対するわけ」(創史社)、「原発のウソ」(扶桑社新書)など

原子力発電は安全か？

ロシア軍がウクライナに侵攻し、真っ先に占拠したのがチェルノブイリ原発でした。原発が戦争やテロの標的になることが全世界の知るところとなりました。3月16日深夜には福島県沖を震源とする震度6強の地震が発生。東京電力福島第一原発5号機などで使用済み燃料プールのポンプが一時停止するなどしました。

一方、原油価格が高騰する中、原子力発電所の稼働を求める声もあります。

果たして、原子力発電所は安全なのか？原子力と向き合い続けてきた小出裕章氏が詳しく話します。

4月24日(日)
14時～16時
南魚沼市民会館
大ホール

参加費:500円(高校生以下無料)

※ マスクを着用して来場ください。

※ 感染症の拡大により、中止する場合があります。

明日をひらく連続講座実行委員会

実行委員長:樋口秀敏 電話:025-782-5233(平日9時～13時)

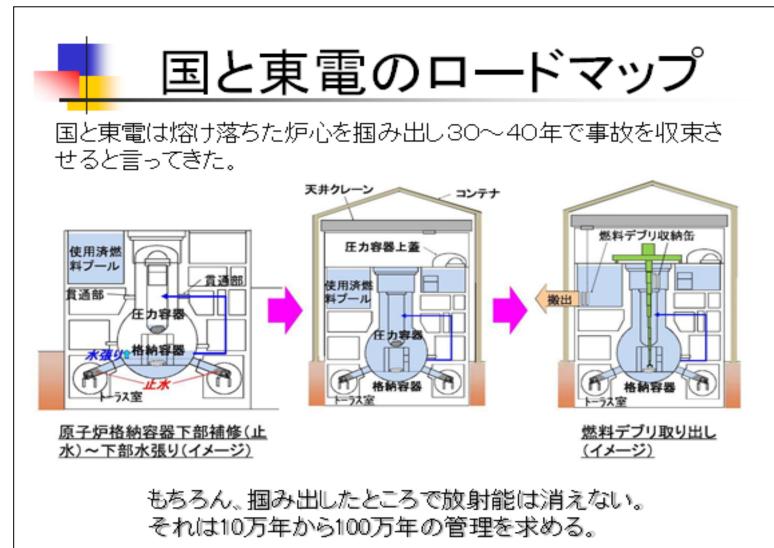
原発について、一緒に考えてみませんか

東京電力福島第一原子力発電所は、2011年3月11日に発生した東日本大震災と津波によりメルトダウンを起こし、大量の放射性物質を大気中に放出しました。その影響は新潟県にも及び、現在も南魚沼市、湯沢町で採れたコシアブラの出荷と食用の自粛が要請されるなどの状況が続いています。柏崎刈羽原発で同じような事故が起きたら南魚沼はどうなるのでしょうか。私たちは、どのように備えたらいいのでしょうか。



東京電力柏崎刈羽原子力発電所は、2007年7月16日に発生した中越沖地震で大きな被害を受けました。変圧器の火災で黒煙を挙げる3号機の映像は衝撃的でした。敷地内の道路は大きく波打ち、配管のずれなども生じ、放射性物質の拡散も心配されました。柏崎刈羽原発は、地震や津波などの自然災害に加え、テロなどの被害に耐えられるのでしょうか。【写真は、事故後の原発構内の様子】

国と東京電力は、東京電力福島第一原発の廃炉作業を、事故から40年後には終了させる工程表を示してきました。事故から11年が過ぎた現在、トラブルなどで作業に遅れが見られますが、廃炉完了の時期を2051年から変更していません。果たして、計画通りに廃炉を完了させることができるのでしょうか。【右の図は、講演会資料の一部】



原子力規制委員会は2013年3月19日、東京電力福島第一原子力発電所の事故の反省や国内外からの指摘を受けて、原子炉等の設計を審査するための新しい基準（新規制基準）を決定しました。田中俊一原子力規制委員会委員長（当時）が「世界一厳しい」と語った新規制基準で原発事故を防げるのでしょうか。

※ 事前の受付は行っていません。直接会場にお越しください。